

本報告書を読む際の注意

- 1 Nは質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
なお、特に数字を示していない場合はN=2,365人（有効回収数）である。
- 2 標本誤差は回答者数（N）と得られた結果の比率によって異なるが、単純任意抽出法（無作為抽出）を仮定した場合の誤差（95%は信頼できる誤差の範囲）は下表のとおりである。

N \ 各回答の比率	10% (又は 90%)	20% (又は 80%)	30% (又は 70%)	40% (又は 60%)	50%
2,365	±1.2	±1.6	±1.8	±2.0	±2.0
2,000	±1.3	±1.8	±2.0	±2.1	±2.2
1,500	±1.5	±2.0	±2.3	±2.5	±2.5
1,000	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1
500	±2.6	±3.5	±4.0	±4.3	±4.4
100	±5.9	±7.8	±9.0	±9.6	±9.8

なお、本調査のように層化2段無作為抽出法による場合は標本誤差が若干増減することもある。
また、誤差には回答者の誤解などによる計算不能な非標本誤差もある。

- 3 質問の種類を示す記号は次のとおりである。
M.A. : 1回答者が2つ以上の回答をすることができる質問（Multiple Answers の略）。
3 M.A. : 1回答者が3つ以下までの回答をすることができる質問。
M.A. と 3 M.A. において、M.T.（Multiple Total の略）は回答数の合計を回答者数（N）で割った比率であり、通常その値は100%を超える。
- 4 結果数値（%）は表章単位（小数第一位）未満を四捨五入してあるので、内訳の合計が計に一致しないこともある。
- 5 統計表等に用いた符号は次のとおりである。
0.0 : 表章単位に満たないが、回答者がいるもの
— : 回答者がいないもの
- 6 クロス集計の図表に付した調査結果の分析記述においては、全体平均と比べ、統計的に有意差のあるもののみ触れている。なお、誤差を考慮し、該当者数が50人未満のものについては触れていない。
- 7 「無回答」には複数選択した回答などの無効回答が含まれる。